

報告事項オ

平成28年度グローバルリーダーズキャンパスについて

平成28年度グローバルリーダーズキャンパスについて、別紙のとおり報告します。

平成29年4月14日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

世界を視野に入れて活躍する高い意欲と志を持った人材を育成するため、県内の高校生等を対象として、世界トップクラスの米国スタンフォード大学が提供する遠隔講座を活用した英語によるプログラムを実施し、県内高等学校8校から35名の生徒が受講した。

開講2年目となる本年度は、活動を広く周知し、より多くの高校生が参加する機会を増やすために、ライブ授業の様子の公開や、受講生徒以外の県内高校生との意見交換の場の設定等が可能かどうか、スタンフォード大学と調整を図ることとしている。

1 講座の概要

(1) 講師

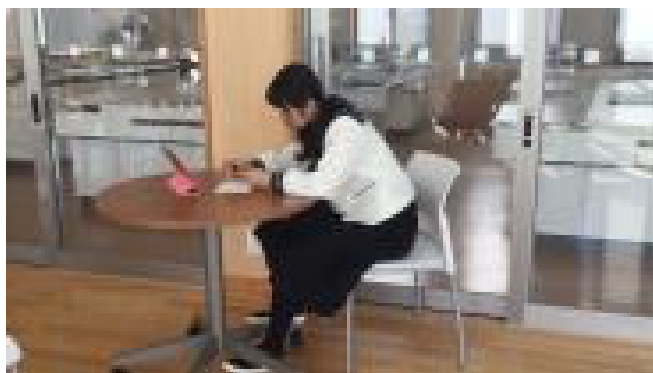
スタンフォード大学教員、講座の単元テーマに造詣の深い専門家等

(2) 講座で扱うテーマ

アメリカ留学、日系アメリカ人の体験、野球を通じた外交、シリコンバレーと起業家精神など

(3) テーマごとの講座の流れ

- ①単元テーマに関する講義のビデオを視聴し、指示されたテキストを読む。
- ②テキストの内容に関する質問や課題を、指示に従い送信提出したり、専用ホームページ上で受講者同士が意見交換を行う。
- ③ライブ授業「バーチャルクラス」で、単元を担当する指導者と受講生とが、ディスカッション等を行う。(月1～2回程度、土曜日の午前に実施)



タブレット端末でライブ授業
受講中の生徒（青翔開智高等学校）

2 成果

- (1) 他県に先駆けて、スタンフォード大学と単独契約して、高校生向け遠隔プログラムを立ち上げることができ、一定数の高校から生徒の参加があった。
- (2) グローバル人材育成の観点から、英語で思考・判断・表現する力を養うプログラムとして有効であることが確認できた。

3 課題

- (1) 参加生徒の英語力や思考力、表現力の差があり、課題の難易度の設定や議論を発展させることが難しかった。
- (2) 講座開始が年度中盤からとなったため、一つ一つのテーマの間隔が短く、事前課題の連絡の遅れ等から、受講生にとっては余裕のない受講スケジュールとなってしまった。
- (3) 受講の様子を公開したり、積極的に広報活動を行ったりするなどして、参加者の裾野を広げる取組が不足していた。

4 課題への対応

- (1) 日米関係やアメリカ文化についての背景知識、意見発表のための高い思考力や即興的な英会話力を要するため、ALTや英語、地歴・公民等の関係教員の協力の可能性について検討する。
- (2) スタンフォード大学へ、平成28年度の講座実施上の課題解決のための要望・提言をし、平成29年度の講座実施計画について綿密な調整を実施する。
- (3) 活動を広く周知し、より多くの高校生が参加する機会を増やすために、ライブ授業の様子の公開や、受講生徒以外の県内高校生との意見交換の場の設定等が可能かどうか、スタンフォード大学と調整を図ることとしている。

5 今年度のスケジュール

取組事項	内容	時期
詳細内容交渉 ・契約	・スタンフォード大との打ち合わせ ・契約締結	4月中
受講者募集	・各校の学校行事等を調べ、実施要項を作成した後、高専も含めたすべての高校に受講者募集の案内（5月中旬まで）	6月上旬〆切
ハード面点検・整備	・受講場所とする県内高校3～4校程度（私立高校も含む。）を決定し、ハードの点検・整備	6月下旬まで
事前指導	・スタンフォード大学担当者による面談	7月中旬
講座の開催	・受講生をネット上で支援 ・公開講座を2回程度実施	8月下旬から翌年2月末まで
次年度講座の交渉	・次年度以降に向け、少子高齢化・過疎化等鳥取県の課題に重点を置いた独自講座開発交渉	2月から
講座の終了	・修了式（受講者を集め報告会を開催する。） ・アンケート調査	3月中旬